

八尾市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会の開催経過（令和6年度）

(1) 第1回地域福祉専門分科会

① 会議日時等

開催日時：令和6年9月19日（木）午前10時から

開催場所：八尾市立社会福祉会館 2階 集会室

② 案件

1. 第4次八尾市地域福祉計画（中間見直し）への意見反映

- ① 中間見直しにあたっての意見反映（まとめ） 【資料1-1】
- ② 地域福祉に関するアンケート調査結果（速報）概要 【資料1-2】
- ③ 令和5年度社会福祉審議会及び地域福祉専門分科会 総括 【資料1-3】
- ④ 重層的支援体制整備事業の実施体制について 【資料1-4】
- ⑤ つなげる相談支援体制WG会議等での意見 【資料1-5】

2. 第4次八尾市地域福祉計画 中間見直しスケジュール 【資料2】

③ 開催結果

1. 第4次八尾市地域福祉計画（中間見直し）への意見反映【資料1-1～5】

計画の中間見直しにあたり、市民・福祉関係者・相談機関へのアンケート調査結果や昨年度の審議会及び分科会での委員意見等を取りまとめ、計画の体系図と照らし合わせ、見直しの方向性について説明を行った。各委員より、地域や各団体の取組みや担い手不足の現状等について多くのご意見をいただき、会長より以下のとおり総括いただいた。

○会長総括

地域福祉計画の中間見直しについての方向性及び前期の振り返りについては、課題の把握や中間見直しに向けての取組みの整理を行うことができている。

具体的な特記事項は以下の通り。

- ① 八尾市に限らない全国的な課題として、「専門分野に限らない連携したうえでの広い分野の対応」「担い手の高齢化・固定化・不足」「自治会加入率の低下」があり、新しい層の担い手の確保が必要である。
- ② 若い世代を中心に関係性の希薄化が進んでいる理由の1つとして、生活が便利になり、自立して近所に頼る必要のない人が増えていることがあげられる。おせっかいをする人を増やすことに加えて、困った時に助けを求められる「受援力」を高めるための地域づくりが必要であり、そのためには顔の見える関係づくりが重要である。

- ③ ヤングケアラーの課題として、こども本人は家族のことだから当たり前と感じてしまうケースが多く、家族のことを誰に相談すればよいか分からない場合もあり、そこで学校の役割が重要になる。福祉と学校現場との連携を密にし、周りが声を掛けて変化に気づいてあげるおせっかいが必要である。
- ④ 市の方向性（地域福祉計画の内容）と地域の実情にギャップが生じないように、それを実際に行う社会福祉協議会の活動計画との内容の共有・連携、また、市民の声をどのように拾っていくのかを考えることが非常に重要である。あわせて、レアケースにも対応できるように実績を重ねていき、それらの実績に基づく計画としていく必要がある。
- ⑤ 人材不足が進む中で、介護分野においても外国人採用を進めており、より給与や待遇の良い職場等が SNS を通じて広く知れ渡るようになり、転職も増えている。そうした中で外国人労働者の住居の問題があり、居住支援法人の立ち上げについて検討が必要である。
- ⑥ 60代でも地域福祉活動における担い手としては、若手と言われる時代で、民生委員についても担い手不足が深刻であり、来年度の一斉改選時には団塊の世代の方が多く退任され、次の層も少ないのでかなり厳しい状況を十分に理解する必要がある。
- ⑦ 人材が先細りになる中で存続が危ぶまれる地域団体もあり、こどもの頃から地域福祉活動に関わり続けてもらえるように、人材育成をしながら地域づくりを進めることが大切。
- ⑧ 担い手確保について、参加したい気持ちはありながらも、活動内容等を知らずに参加できていない方も多くおられるので、そういった方々へのアプローチが必要である。

2. 第4次八尾市地域福祉計画 中間見直しスケジュール【資料2】

令和6年度の見直しスケジュールについて説明を行った。

(2) 第2回地域福祉専門分科会

① 会議日時等

開催日時：令和6年12月9日（月）午前10時から

開催場所：八尾商工会議所 3階 中会議室

② 案件

1. 第4次八尾市地域福祉計画 中間見直しについて

①第4次八尾市地域福祉計画改定版（素案）について【資料1-1～3、1-5】

- ・「基本目標1 身近な地域でつながり支え合う基盤づくり」について
- ・「基本目標2 多様な主体の参加支援と連携・協働の推進」について
- ・「基本目標3 身近な地域で支援が届くしくみづくり」について
- ・「成年後見制度利用促進計画」、「再犯防止推進計画」について

②地域福祉に関するアンケート調査結果報告書について【資料1-4】

2. 第4次八尾市地域福祉計画 中間見直しスケジュール 【資料2】

③ 開催結果

1. 第4次八尾市地域福祉計画 中間見直しについて【資料1-1～5】

計画改定版（素案）について、基本目標毎に主な改定内容を説明し、各委員より素案に対するご意見や各団体の担い手不足の現状等について多くのご意見をいただき、会長より以下のとおり総括いただいた。

○会長総括

全般的に市民にも分かりやすい内容になっている。分科会委員や今後実施するパブリックコメントでの意見についても適切に反映いただきたい。

また、計画に掲げる各種の仕組みと地域での実際の取組みの間をつなぎとめるものを考え、進捗を評価していく必要がある。

具体的な特記事項は以下の通り。

- ① SNS は、若者をはじめ非常に有効な情報発信ツールではあるが、それだけに頼るのではなく、ターゲット層等も考慮したうえで紙媒体の利点も踏まえた広報手段について検討する必要がある。

また、地域福祉に関する広報を行うにあたっては、地域福祉を前面に出すよりも、楽しく体験する中で地域福祉についても学べるようなしかけが重要である。

安易に紙媒体は費用がかかるという理由で電子媒体に変えるのではなく、SNS をうまく活用するという視点、そもそも情報にアクセスできない人がいるという視点を持っておく必要がある。

- ② 行政の縦割り（所属単位や分野単位）ではなく、地域で楽しめるという視点で考えていく必要がある。また、八尾市内でも地域によって課題が異なる場合もあり、各課題にあわせた対応が必要である。
- ③ こども会がなくなっている地域もあり、こどもを集める手段が減ってきている中で、こども部局や社会福祉協議会と連携しながら、こどもを主体とした取組みを展開していく必要がある。
また、担い手を発掘する前に、担い手になり得る人材がそもそもいない地域も出てきている状況を踏まえる必要がある。
- ④ 八尾市は、地域や行政、社会福祉協議会、関係機関等との連携は進んでいるように感じるので、地域包括支援センター等ももっと地域活動に巻き込んでいければ良い。
- ⑤ 障がいのある方がどこの地域でどのように暮らしているかを周知・啓発しているが、地域の関係性の希薄化もあり難しい現状の中で、困った時に助けを求められる「受援力」を高めるための地域づくりが必要であり、そのためには顔の見える関係づくりが重要である。
また、受援力について、助けを求めることを恥ずかしいと思ったり、自分で何とかしないとイケないという気持ちが強い人が多いと思うので、受援力の重要性を伝えていく必要がある。
- ⑥ ボランティア関係も担い手不足が深刻であり、とりわけこどもや若い世代の担い手が増えない現状がある中で、自身が行っているボランティアだけでなく、他のボランティアとのコラボレーションやイベントでの啓発など工夫していく必要がある。
親子で参加できて、こどもがイベント等を楽しんでいる間に親がボランティアをするといった時間的制約がある中でも参加してみたいと思える工夫も必要。
- ⑦ 災害時の対応として、これまでは消防団や祭りの保存会の方々に協力を求めているが、これからは若い世代やこどもにも協力を求める必要がある。
また、今やっている地域の活動をどのように若い世代に引き継いでいくかが課題である。

2. 第4次八尾市地域福祉計画 中間見直しスケジュール【資料2】

令和6年度の見直しスケジュールについて説明を行った。

(3) 第3回地域福祉専門分科会

① 会議日時等

開催日時：令和7年2月3日（月）午後2時30分から

開催場所：八尾市水道局 4階 大会議室

② 案件

1. 第4次八尾市地域福祉計画 中間見直しについて

①市民意見提出制度（パブリックコメント）の実施結果等について【資料1】

②第4次八尾市地域福祉計画改定版（案）について 【資料2】

③ 開催結果

1. 第4次八尾市地域福祉計画 中間見直しについて【資料1】【資料2】

計画（素案）に対する市民意見提出制度（パブリックコメント）の実施結果と市の考え方について説明の上、計画への反映内容等を報告し、分科会における計画（素案）についての最終確認をいただき、会長より以下のとおり総括いただいた。

○会長総括

全般的に市民目線で福祉を語っていて分かりやすい内容になっている。計画を策定するだけでなく、計画の周知方法や内容に実効性を持たせられるような工夫が必要。

具体的な特記事項は以下の通り。

- ① 担い手不足が課題として挙げられる一方で、地域で活躍されている方もおられるので、市民後見人や認知症サポーター養成講座修了者などがさらに活躍いただける場を提供する必要がある。
- ② 子どもにとって生きづらい社会となっているので、もっと生き生き、のびのび暮らせる社会にする必要がある。しんどい時に相談できる場及び相談できる体制があることが重要。
- ③ 認知症の方の相談、その中でも正しい判断ができずに契約を結んでしまったという相談が増えており、福祉関係者に被害の実態を地域の学習会等を通じて知ってもらう必要がある。
- ④ SNSに情報を載せることが多くなっているが、紙媒体、ポスターの効果も大きいので、それぞれのメリットを理解して広い層に情報を発信することが重要。

- ⑤ 関わりたくない、関わってほしくないという人が増えている中で、地域福祉を推進することは容易ではなく、障がい者も共に生きて当たり前ということを啓発するため、災害時要配慮者の支援体制づくりを通じて、八尾市民の障がい者に対する理解を深めていく必要がある。
- ⑥ 八尾市内に多くの団体があり、それぞれがやる気を持って頑張っておられるので、その存在を知ってもらえるよう、周知啓発を充実させる必要がある。
- ⑦ ボランティア連絡会として、啓発を兼ねて地域の人と接触し、担い手を増やしたいと考えているがなかなか難しく、これから社会福祉協議会と連携して実現していく。
- ⑧ 地域包括支援センターに入る相談には、詐欺のこともあり、その手口として従来の訪問や電話だけでなく、QRコード等を使用したものも発生している。各団体で詐欺被害に関する情報交換を行う必要がある。
- ⑨ 福祉の特別感をなくして、当たり前に、日々の暮らしの中で、専門職でないとできないこともあるが、地域の人のごく普通に関わることで得られる効果もたくさんあるので、そうした人を増やしていくことが重要。
- ⑩ 重層的支援体制というのは仕組みの話であって、相談支援や参加支援、地域づくりの実施内容が大切である。
- ⑪ パブリックコメントをはじめ、意見が集まれば集まるほど市民にとって良い計画になるので、引き続き発信し、市民の声を聞き続ける必要がある。